



報道に品性を！ 報道に信頼を！

「報道被害者支援ネットワーク・東海」会報
連絡先；「愛知総合法律事務所」
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-2-29
FAX/TEL 052-951-6881

ほっと通信 創刊号

発行日 04・05・12

報道被害の相談専用電話は「052-951-6881」

報道被害以外にも、様々な意見をFAXにてお寄せください
(ホームページを近々開設。http://www.hodohigai-tokai.gr.jp)

目次

1	報道被害ネット 東海スタート
2	「法廷の似顔絵」で メディアへ申し入れ
3	知名度不足？ 電話相談は1件のみ
4	ホームページづくり、 あと少し
5	【投稿ほっと】
6	【催し案内】
7	【編集後記】

1～4は【ほっとNEWS】

ほっとNEWS

「報道被害ネット東海」スタート

「報道被害者支援ネットワーク・東海」（略称・報道被害ネット東海）が無事、誕生しました。

設立総会を3月13日に名古屋市教育館ホールで開き、100人を超える人たちが参集。皆さんの賛成を得て発足の運びとなりました。総会後には、報道被害者の山田悦子さん（甲山事件）と河野義行さん（松本サリン事件）をゲストに記念トークを行いました。

お二人は報道被害の実態を自らの体験を通して語り、報道被害に取り組む報道被害ネット東海に大きな期待を寄せてくれました。

この日は新聞、テレビ各社がこぞって取材。新聞はほぼ全紙、テレビはNHKなどが夕方に放映をしてくれました（NHK以外は確認できず）。後日、NHKラジオが平川代表にミニインタビュー、新聞協会の機関紙「新聞協会報」が三段見出しで設立を報じ、マスメディアにおける反響の大きさを感じました。

参加者の会場アンケートを行い、大勢の方から回答をいただきました。いずれも山田さん、河野さんの話に感銘を受け、報道被害者支援の必要に理解を示しておられます。ほかに印象に残った声を紹介します。



肖像者への配慮により一部ぼかし加工

「市民とマスメディアが協働して＜2つの自由がバランスよく尊重される社会＞を実現する第一歩だと感じた」「記者と市民との対話の集まりが出来るといい」「市民を啓発や支援の対象ととらえず、市民主体の活動とすべき。「市民のサポート」という言葉はひっかかる」

この日、呼び掛けに応じて大勢の方に正会員、賛助会員になっていただき、ありがとうございました。会のあり方に関する要望もたくさん寄せられました。「息長く続けてほしい。専門家の集まりにならず、一般市民が気軽に参加、相談しやすい会になってほしい」「どう広報を行っていくかは重要なポイント」「会報を作って。投稿欄があるといい」

「法廷の似顔絵」でメディアへ申し入れ

「報道被害ネット東海」は初仕事として、有名メディアの報道部長への申し入れと、司法記者クラブへの説明を行いました。

申し入れと説明は、少年によるとされる幼児虐待死事件（少年逆送事件）の名古屋地裁公判（04・2・17）で、メディアが雇用した画家複数が傍聴席最前列で筆音を響かせて、少年の似顔絵を描き、テレビ報道や新聞紙面に使用した裁判についてです。

先の設立総会で、この件について「少年似顔絵報道に関する要望」としてメディア宛に配布したのですが、メディアの反応がなく、改めて各報道部長宛に送付し、4月16日に司法記者クラブへ代表4人が出向いて説明しました。併せて裁判所担当部局にも参考文献として同じものを手渡ししました。要望の文章は、総会参加者の全員にも配布していますので、再度見ていただければ幸いです。

裁判報道として、法廷での被告を似顔絵に描いて紙面や映像で紹介する手法が流行しています。法廷の似顔絵は法廷でのメモが許されていることから、メモ取りの延長としてメディアが取り入れてきたものです。

今回の似顔絵については、被告が少年であることから「大いに問題あり」とアクションを起

こしたものです。少年法61条には「家庭裁判所の審判に付された少年や、少年時代に犯した罪で公訴を提起された者について氏名、年齢、職業、住居、容ぼうなど本人と推定できるような記事や写真を新聞、その他の出版物に掲載してはならない」と定めています。そのほかにも似顔絵を描く筆音により、集中力がそがれる法廷で裁判を受けることは、「被告人の適正な裁判を受ける権利」を著しく侵害しています。

法廷の似顔絵については、少年に限らず、これまで問題になったことがありません。よい意味の似顔絵論争が起きることを望みたいものです。

なお3月29日には、同事件の母親の公判があり、証人として出廷した少年のためにツイタテによる遮蔽の措置が、裁判所の判断でとられました。またメディアへの申し入れをした直後の少年公判には、法廷スケッチが行われることはありませんでした。というよりは、公判が2回目ということで取材記者の姿が激減。これはこれで、「熱しやすく冷めやすい」メディアの「負」の姿を見た思いがします。

知名度不足？電話相談は一件のみ

報道被害ネット東海の発足を受けて、相談電話の対応も始まりました。

専用ダイヤルは「052-951-6881(FAX兼用)」で、受付時間は毎週水曜日の午後4時から同6時までの時間。これまで4週を経ましたが、今のところ相談は初日の1件のみでした。（ただ専用ダイヤルスタート前に、非公式な相談や問い合わせが数件ありました）。

想定した報道被害者以外の相談が殺到するのでは、と危惧もしましたが思わぬ静けさに

、やや拍子抜けしています。知名度不足が大きな要因と思われ、報道被害ネット東海のホームページ開設や、PRパンフレットの作成が急がれます。皆さんからも近辺へのPRをお願いします。

なお相談の1件については、かなり難しいケースで、問題点を慎重に検討しながら、弁護士と連携して取り組んでいます。

ホームページづくり、あと少し

報道被害ネット東海のホームページづくりを進めています。作業手順が色々あり、手間取っています。しかしドメイン名が「hodohigaitokai.gr.jp」と決まり、近々アクセス可能な状態となります。

投稿ほっと

報道バッシング

(投稿者 高橋恒美)

イラクで人質となったNPO活動や取材活動の人たちが、無事帰国したことを喜びたい。

しかし、憔悴し切った先の3人とその家族を見て、この国はどうなっているのか、と嘆かずにおられない。もちろん憔悴の原因は政府をはじめ、心無い国民からのバッシングだ。「自業自得」「自己責任」「税金の無駄遣い」「何様のつもり」……。それを演出したのは、他ならぬマスメディアだ。3人とその家族は、まさに報道被害者といっている。

マスメディアはどう演出に加担したのか。例えば3人が釈放された翌日の読売新聞の社説は、こんなふう主張している。

「政府の退避勧告という制止を振り切って、危険を覚悟で出かける以上、万が一の時には政府が助けてくれる、と安易に考

えるべきではない。政府が自己責任の原則の自覚を求めているのは当然のことである」

同紙社会面には社会部長の署名記事で「軽い行動、重い命題」(4段見出し)として、「発生直後、安否情報がないことなどをめぐって家族が政府を批判するのを見て、首をか上げた人は少なくなかった。・・・救出された3人も猛省が必要だ」と言い放っている。

ここには自衛隊のイラク派兵について、「民間人が足を引っ張るな」という論旨である。読売を例に出したが、マスメディアの多くがこれに等しい。

小泉首相ら政府首脳が、自らの窮地を逃れるために、バッシングに走る気持ちはある意味で分かるが、マスメディアがそれを援護するに及んでは開いた口がふさがらない。

この欄は会員や希望者による投稿コーナーです。投稿への反論も歓迎です

* 投稿規程 *

住所・氏名・電話(FAX)番号、会員であればその旨を原稿に明記してください。

原稿は800字程度。

【注意事項】

趣旨を変えない範囲で原稿に手を入れることがあります。

応募は郵送・FAX・Eメールにて
*****@*****.(未定)

(住所・FAX番号は巻頭参照)

フランスの新聞「ルモンド」が書いている。「日本人は人道主義に駆り立てられた若者を誇るべきなのに、政府などは人質の無責任さをこき下ろすことにキュウキュウとしている(なぜ誇りに思わないのか)」と。まさにその通りだ。

催し案内

この欄では、報道問題に関する地域での催しを紹介します

「イラク報道と有事法制～問われる言論・報道の自由～」5月21日（金）18時30分から朝日新聞名古屋本社15階「朝日ホール」（名古屋市中区栄、地下鉄「伏見」駅下車7番出口より徒歩5分）パネリストは久保田弘信氏（フリージャーナリスト）、飯室勝彦氏（中京大教授）ら。主催は「マスコミと人権を考える東海の会」や「市民とメディア研究会あくせす」「マスコミ夜塾IN名古屋」などでつくる「市民と言論実行委員会」

「マスコミと人権を考える東海の会」の5月例会「徳山ダム報道」。講師は「徳山ダム建設中止を求める会」事務局の近藤ゆり子さん。5月22日（土）14時から名古屋市教育館

編集後記

設立総会のアンケートに「広報体制を」「会報を」の声があって、「早く会報を発行したい」と気をもんできた。それにもかかわらず手間取ってこの有様

タイトルの「ほっと」は「報道」の「ほ」、「ネット」の「っと」と「東海」の「と」。もちろん「ほっと」な紙面にしたい、という願いも込めた積もり。

正会員と賛助会員が60人以上を超え喜んでいる。参加者全員の活動エネルギーを、どう引き出していけるのが今後の課題。「この会報をコミュニケーションの場に」「適時、意見を出し合える集まりを持つ」など内部討議が重ねられている。 投稿やご意見歓迎。 （た）

以上